

池田文書の研究 (37)

武家華族の書簡 (その2)

池田文書研究会

[19] 長岡護美の書簡

当家は熊本細川家の分家。

護美は細川本家6男として天保13年生まれ明治39年没。明治5年より12年まで欧米留学。帰朝後長岡家を設立。オランダ・ベルギー公使歴任。明治17年男爵。24年子爵。享年65。(1842-1906)

1 明治 年10月5日 (2200)

(前欠) 全快と相考申病床ヲ罷参申御海恕可被下候、草々頓首

十月五日

長岡護美

池田謙齋殿 侍史

尚々御自重奉専禱候、小原君へも宜敷御一声可被下候

2 明治 年1月28日 (2201)

(封筒表) 駿河台北甲賀丁九番地

池田謙齋殿 侍史

長岡護美

(封筒裏) 絨 飯田町三丁目十四番地
益御清寧奉恭賀候、小生儀日々順快昨今は従前よりも却テ気力ヲ得候間御安慮可被下候、扱来月三日独人ベルツ⁽¹⁾氏一同晚餐相献度候間午后六時ニ御来光可被下候、素より御平服ニテ御来車奉待上候、頓首

正月廿八日

長岡護美

池田謙齋殿 侍史

(1) ベルツ Baelz, Erwin von ドイツ人医学者。明治9年来日。東京医学校にて生理学・薬物学を講義。明治天皇侍医。明治38年ドイツへ帰国。(1849-1913)

3 明治 年12月25日 (2202)

歳暮之賀儀奉万祝候、扱追々御治療被相願夫々御礼も届兼失礼ニ奉存候、御葉種料等別紙之通差出申候間御取手被成下御門人様かたへも宜敷奉願候、此段宜奉得貴意被申付如此御坐候也

十二月廿五日

長岡家従

池田謙齋様

4 明治 年3月5日 (2203)

(封筒表) 池田謙齋様 いそぎ御返事

長岡家従

(封筒裏) 〆

細川宜女⁽¹⁾事過日風気後透と快ク無之、且邸内ぬる湯運儀兩三日前俄ニ病氣相発候ニ付、滝井宗徹治療いたし居候へ共同人よりも一応大先生え之御診察奉願候様申出候間、何卒乍御難題宜敷御診察被成下候様此段併テ奉願候事

三月五日

長岡家従

池田謙齋様

追テぬる湯御診察被下候節ハ滝井宗徹も罷出御厚意之趣相伺度との事に候、いつ比御出来被成下候哉、乍御手数其趣被仰知被下候様奉願候事

(1) 細川宜^{よし} 明治4年生まれ明治24年8月没。細川護久(護美の兄)の次女。松平直亮(松江藩主家)夫人。享年21。(1871-1891)

5 明治 年12月20日 (2204)

拝呈仕候、寒威強御坐候処弥御安祥奉賀候、然は甚々僂末之品ニ候得共朝鮮鮓一折聊歳末御祝儀之印迄進呈被致度、持せ差出申候間宜敷御披露被下度奉願候、勿々頓首

十二月廿日

長岡護美 家従

池田謙斎様
御執事御中

6 明治 年1月17日 (2205)

(封筒表) 池田謙斎様

(封筒裏) 長岡護美 家従

拜呈仕候、陳はヘルツ診察之儀ニ付昨日罷出御咄申上置候十七八日兩日之内今日午後四時頃罷越診察可仕候段昨夜ヘルツより申越候、尤北里柴三郎⁽¹⁾ト申人同道にて罷出候筈ニ御坐候、此段書中ヲ以申上候間左様御承知被成下度奉頼候也

一月十七日 長岡護美 家従

池田謙斎様

(1) 北里柴三郎 嘉永5年生まれ昭和6年没。熊本生。明治18年—25年ドイツ留学。私立伝染病研究所設立・所長。大正4年北里研究所設立・所長。慶応大学医学部初代部長。享年80。(1852-1931)

[20] 鍋島直大・榮子の書簡

当家は佐賀藩主家(35万7000石余)

^{なおひろ}直大は弘化3年生まれ大正10年没。藩主鍋島直正(閑叟)の長男。文久元年佐賀藩主継承。英国留学後外務省御用掛。イタリヤ公使・宮中顧問官。侯爵。享年76。(1846-1921)

^{ながこ}榮子は安政2年生まれ昭和16年没。広橋胤保の5女。南岩倉具義の妻。後に離婚鍋島直大の後妻。享年87。(1855-1941)

1 明治19年5月30日 (2303)

私母⁽¹⁾死去之節は御懇篤之御弔儀ニ預り忝奉存候、今般除服仕出仕致候付不取敢右御礼為可申陳如是御座候也

五月三十日 鍋島直大

池田謙斎殿

(1) 鍋島建子^{たけこ} 天保元年生まれ明治19年5月没。徳川(田安家)^{なりまさ} 斉匡9女。鍋島直正(閑叟)夫人。享年57。(1830-1886)

2 明治 年12月1日 (2304)

本月四日伊国皇族シユリトシエヌ殿下下来臨候ニ付打毬相催候間、午後第二時三十分御来駕被成下度此旨御案内申入候也

十二月一日 鍋島直大

池田謙斎殿^(ママ)

二仲、御着服之義ハ平常服乃フロックコート御着用ニテ可然、尤モ雨天候半は打毬相止可申候也

3 明治 年12月23日 (3126)

拜呈、陳は来ル廿七日吹上禁苑御馬場於て打毬相催候ニ付、御来觀之節万一怪我人等有之候節之用意致置度存候間、御門人之内壺名御携伴相願旨此段御頼申進候也

十二月廿三日 鍋島直大

長岡護美

池田謙斎殿^(ママ)

4 明治28年12月 (2301)

謝状

本会基本金臨時募集の趣旨を御賛成御寄附被成下深謝之至ニ候、右御厚志を表せん為茲に謝状を呈候也

明治廿八年十二月 日

婦人共立育児会会頭

侯爵夫人 鍋島榮子

(婦人共立育児会会頭之印)

池田きね子殿

[21] 蜂須賀茂韶・家扶・家従・中井常次郎の書簡

当家は阿波徳島藩主家(25万7900石)

^{もちあき}茂韶は弘化3年生まれ大正7年没。明治元年徳島藩主継承。英国留学後外務省御用掛。フランス公使・東京府知事・貴族院議長・文部大臣歴任。蜂須賀隆芳の女・斐子と結婚するも明治7年離婚。水戸徳川慶篤^{よしあつ}の長女随子^{よりこ}と再婚。享年73。(1846-1918)

中井常次郎は華族・政府高官家に入出入する医師(本誌第55巻第3号379頁に奥平家診察書簡あり)

1 明治 年5月25日 (243)

拝啓、倍御清穆奉賀候、然は拙者義今般徳川昭武⁽¹⁾
 養妹⁽²⁾致縁組明後廿七日為引越即日可致結婚候、
 右御吹聴如此御坐候也

五月廿五日 蜂須賀茂韶
 池田謙斎殿

(1) 徳川昭武 ^{あきたけ} 嘉永6年生まれ明治43年没。徳川齊昭の18男。齊昭の長男慶篤の嗣養子となり水戸徳川家を継ぐ。享年58。(1853-1910)

(2) 徳川昭武養妹 徳川慶篤の長女随子^{よりこ}。安政元年生まれ大正12年没。松平定敬に嫁したが離婚し蜂須賀茂韶と再婚。享年70。(1854-1923)

2 明治 年11月6日 (2432)

(封筒表) 池田謙斎様 親展 蜂須賀茂韶
 (封筒裏) 〆

拝啓、偕は過日休業後快気ニ赴候処、又々昨日来舌裏ニ痛処出来、尤極て聊之事ニ候得共同種之物ニ相違無之候間、過日之薬明朝受取人差出候間、御用意置可被下候、右草々

十一月六日 茂韶 頓首
 池田先生

3 明治 年12月27日 (2433)

謹啓、益御清逸奉賀候、然は鶴松義三四日已前より風邪之気味にて少々熱発モ仕相勝不申ニ付、乍随意明廿八日中ニ御来診相願度此段書中を以得貴意候、何分之御答使之者へ御申聞被下度、右迄如此御坐候也

十二月廿七日 蜂須賀茂韶 家従
 池田謙斎様
 御執次中

4 明治 年5月6日 (2434)

過日は貴書ヲ以テ来ル八日高輪拙邸へ御来臨可被下候段御申越奉謝候、同日は午後被相招居候ニ付、何卒夕六時頃ヨリ御光来被下度、籠末之夕飯用意致置可申候、尤六時ヨリ後ニ候へハ夜ニ入候テモ更ニ差支無之御待可申上候、右草々頓首

五月六日 蜂須賀茂韶

池田謙斎殿

5 明治 年8月10日 (2435)

謹啓、酷暑之候倍御壯勝奉賀候、扱ハ過刻使を以相願候蜂須賀□□次郎妻義、此程来不快中昨九日安産仕候処、其后熱発強甚困難罷在候ニ付不敢近傍医師相頼治療相受居候得とも、前段之次第ニ付何卒速ニ御診察相願度、大暑之折柄相願兼候得とも本日御帰館相成次第御来診相願度、右願用のみ、匆々頓首

八月十日 蜂須賀 家従
 池田謙斎様

6 明治 年5月15日 (2436)

拝呈仕候、過般来鶴松種痘之義ニ付、中川良二殿御差越相成昨十四日御再診被下候所、全愈之趣御申聞有之彼是御世話相成候義と茂韶ニおゐても満悦罷在候、右ニ付御同人へ御謝義ノ所如何程御贈進仕候て可然哉、貴慮奉伺度御依頼仕候、乍御手数貴報被仰知被下度如此御坐候也

五月十五日 蜂須賀家 家従
 池田謙斎様 尊下

再伸、御同人御来診之節御弟子御召連御坐候、右御人へも御贈進方被仰知被下度は亦奉願候也

7 明治 年5月22日 (2437)

(端裏書) 池田様 蜂須賀家 家従
 拝啓仕候、益御勇健ニ被遊御坐候段奉敬賀候、陳は過日来茂韶方へ度々御来車被下候所留守にて甚失敬之事ニ被存候、就ては明二十三日夜は必在宿罷在候間御来車被下間敷哉、同日御指支も御坐候得は此後幾日頃尊来被成下候哉、相伺候様申付候間乍大略書中ヲ以申上候、否貴答被仰知度如此御坐候也

五月二十二日

8 明治 年12月25日 (2438)

(封筒表) 駿河台北甲賀町^(ママ)十九番地

池田謙斎殿 閣下

(封筒裏) 〆 浜町老丁目 蜂須賀 家従

拝啓、然は鶴松義三四日以前より風邪ニテ相勝不申候ニ付、何卒今日中ニ御脈察トシテ御来車被下度、此段御依頼申上候也

十二月廿五日 蜂須賀 家従
池田謙斎殿 机下

9 明治 年12月17日 (2439)
(封筒表) 池田謙斎殿 蜂須賀 家従
(封筒裏)

拝啓、向寒之節ニ御坐候所益御壯健ニ被成御坐奉賀候、然は薄義之至ニは御坐候へ共御診察料進呈仕度御受納被下候得は難有奉存候、此段乍略義以使御礼旁如是御坐候也

十二月十七日 蜂須賀 家従
池田謙斎様

二伸、去七月来之水薬価は又御贈申上候間御受納被下度候也

(同封)

拝呈、陳は此鴨輕少之至ニは御坐候得共三田小山邸ニテ狩取候間、折節御慰ニ進呈仕度御受納被下候得は難有奉存候、早々頓首

十二月十七日 蜂須賀 家従
池田謙斎殿

10 明治 年3月19日 (2440)

拝啓、倍御清逸拜賀之至ニ候、然は從二位義少々不快ニ付御診察相願度、就ては本日昼頃迄ニ御来診相整問敷哉、若し御出御指問ニ候ハ、明日御出相願度、右御依頼可致旨申聞候間、否御報相願度如斯御坐候、頓首

三月十九日 蜂須賀茂韶 家扶
池田謙斎様 侍史

尚以明日御来診被下義ニ候ハ、可相成ハ予メ時刻相伺置度此段も副て相願候、以上

11 明治 年3月14日 (2441)

拝啓、益御清適奉恭賀候、偕明日ハ主人ニも在宅罷在候ニ付、何時頃御来車御都合宜敷哉、大凡刻限之处一応御問合可致旨申聞候、乍御手数御報答被下度如此御坐候、草々頓首

三月十四日 蜂須賀茂韶 家従

池田謙斎様

12 明治 年7月2日 (2158)

拝啓、一昨日ハ蜂須賀家へ御来臨奉謝候、爾后昨夜迄ハ便通無之候処、本日午前三時頃硬便一行、七時頃同硬便一行、九時頃硬屎と混し水瀉一行、十一時混尿水瀉一行有之、臨時之ドーフルス散御頓服且ツ芥子腰浴申上候、以后ハ多分止瀉と被存候、御服薬ハ一昨日ノミ一日分水剤中へ阿片丁〇・七加入、昨日来ハ阿片丁幾を除き差上候得共、又々今朝之状態ニては阿片丁幾〇・八を加入致し置き候、即ち本日ハ

コロロンボ 一・五

薄荷葉 〇・七

九〇・〇へ浸出し

阿片丁幾 〇・八

一日三次へ御分服

次硝酸ビスミット 二・〇

一日三次御分服

右之通且ツ前文之御容体ニ候間御通報申上候、拜具

七月二日

中井常次郎

池田先生

[22] 北條氏恭の書簡

当家は河内狭山藩(1万石)。北條早雲の孫氏康の4男氏規を祖とする。

氏恭は堀田(佐野)正衡の7男。弘化2年生まれ大正8年没。明治4年明治天皇の侍従。宮中顧問官。子爵。享年75。(1845-1919)

1 明治 年3月20日 (2625)

拝呈仕候、先以益御安壯御起止奉恐賀候、然は舍弟兼次郎義、先年来所勞一時較快方之模様相考候得共、兎角全癒ニ到兼痛心罷在候間、突然相願甚恐入候得共御療養奉煩度、尤委細之模様ハ本人より申上候得共、右希願奉陳述度以拙毫如此御坐候、頓首

三月廿日

北條氏恭

池田謙斎様

2 明治 年2月24日 (2626)

(封筒表) 池田謙斎殿 玉机下差上置

(封筒裏) 下二番町卅九番地 北條氏恭

拜呈仕候、益御安泰奉恐賀候、然は先年来御配意預候舎弟兼次郎義、御蔭ニテ較平癒罷過候所、昨今時氣ニ感じ随テ彼ノ肺胃両病ヲ醸候模様ニテ旧蔭之仕合、一昨日より石井侯へ依頼療養罷在候得共、何分例之心経質引起し、本人深く彼是心配之模様故、此義ハ種々説論相慰申述候得と、何分病勢之義素人之説論ニテハ行届難く、就て甚恐縮御多忙中トハ考候得共、不日御退省等之御序ニテも御立寄一応御診察、且御説論被成下度奉懇希候、書外拜姿之上可申述候得と不取敢右願用迄、草々頓首

二月廿四日

北條氏恭

池田謙斎殿

[23] 松平確堂(斉民)・康民・数見伝の書簡

当家は美作津山藩(10万石)・徳川家康の次男秀康の長男忠直を祖とする。

斉民(確堂と号す)は文化11年生まれ明治24年没。第11代将軍家斉の14男。津山藩は加増の上養子として迎える。維新後徳川宗家家達の後見人。子爵。享年78。(1814-1891)

康民は文久元年生まれ大正10年没。斉民の5男子爵。享年61。(1861-1921)

1 明治 年5月31日 (2747)

(端裏書) 池田様 松平確堂

益御清榮奉拜賀候、陳は先生此程御不快之趣如何被為在候哉、不時候折角御厭専一奉存候、此鶏卵軽少之至御座候へ共、右御見舞迄確堂より御贈り申度ニ付、宜敷御取繕御披露被下度奉希上候、此段相願度如是御座候也

五月卅一日

2 明治 年7月28日 (2746)

一書肅呈仕候、甚暑之候益御安泰被成御座奉拜賀候、陳は春来御来診相願難有奉存候、右謝情を表候迄、別封金三円、将又粗菓壺折暑中御見舞として拜呈候、御笑納被成下候ハ、本懐之至ニ奉存

候、此段拜陳仕度如斯御座候、頓首拜白

七月廿八日

松平康民 家扶

池田謙斎様

御左右御中

追て小原君へも春来御診察被下候御礼寸志迄ニ別封金壺円五拾銭為持差出候間、乍御手数御序之御、御贈方可然御取斗可被下候也

3 明治 年8月6日 (2749)

拜啓仕候、酷暑之節御坐候処、益御勇健被成御坐奉恭賀候、陳ハ康民より暑中御動静伺度、因テ輕微之至御坐候得共葡萄酒二進呈致度、此段私共より可然可申上旨被申聞候、草々頓首

八月六日

松平康民内 数見伝

池田先生 閣下

[24] 松平慶永の書簡

越前福井藩主松平慶永の書簡は『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻に掲載に付省略。

[25] 松平直亮家扶・北尾漸一郎の書簡

当家は出雲松江藩(18万6000石)・徳川家康の次男秀康の3男直政を祖とする。

直亮は慶応元年生まれ昭和15年没。貴族院議員。伯爵。享年76。(1865-1940)

北尾漸一郎は生年不詳昭和3年没。松江藩松平家侍医の長男。松江藩医学教授兼病院長。東京にて内外科医を勤める。『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻に書簡掲載。

1 明治 年7月9日 (2744)

愈御泰安奉賀候、直亮義久々先生御診断不相願候ニ付、明十日朝之内参邸仕度候処、一応各位方え御在邸之御模様承り可申旨申聞候にて、乍御手数御都合御報被下度、此段得貴意候也

七月九日

松平直亮 家扶

池田謙斎様

御診断所御中

2 明治 年11月14日 (1598)

拜呈、冷氣相増候処、益御安寧奉拜賀候、陳ハ松

平直亮長女、五六日前より便秘ヲ起し肚間少々疼痛有之候様相見え、一同心配罷在候ニ付一応御診察相願度、且又甚々我侭之儀願兼候得共、午前十一時頃毎日午睡候、其頃ナレハ御診察も十分可被成下候間、万一御繰合相成候へハ別て難有奉存候、右小生参上御願可申上之処取急書面ヲ以奉願候、此段御仁免可被下候、書外拜謁可申上候、早々敬白

十一月十四日 北尾漸一郎
池田様
御取次中

[26] 松平直致家扶の書簡

当家は播磨明石藩(8万石)、徳川家康次男秀康の6男直良を祖する。

直致は嘉永2年生まれ明治17年没。祖父は第11代将軍徳川家斉の26男。侍従。子爵。享年36。(1849-1884)

1 明治 年12月11日 (2745)
拜啓、向寒之候先生益御機嫌能被為涉候御義と奉恐賀候、次ニ各位方ニも愈御清適是又奉賀候、陳は直致事其後も先ツ打続順快之方ニて御蔭を以難有安心罷在候、乍併全快復と申場合ニハ無之、過日も乍略義以書面奉願上候通り今一応先生之御廻診奉希上度、印東氏よりモ尚又何卒此頃之内今一応御診察奉願上度申聞有之、主人ニおいても同様何卒今一応御診察奉願上度申聞、小生共右使者として罷出可奉願答ニ御坐候得共、人少之中種々多忙彼是と迂延仕候ては不相濟候ニ付、甚以大略之義恐入候得共、先ツ各位方迄尚又書面ヲ以奉願上候、何卒可然御取成被下兩三日中之内御差繰今一応御廻診被成下度宜被仰上被成下候、何日何時頃御臨車可被成下候哉御伺被成下、御治定之処甚乍御手数印東迄早々御一報被成下度呉々奉懇願候、尤右等小生共参上以奉願上候振々御取繕奉願度、重々乍自由右等之義不悪御承容被成下度、乍略書此段奉願上候、以上

十二月十一日 松平直致 家扶
池田様
御薬室御中

[27] 松浦詮の書簡

当家は肥前平戸藩主家(6万1700石)

詮は天保11年生まれ明治41年没。明治元年奥羽討征に参加。明宮祇候。貴族院議員。和歌・茶道の名家。伯爵。享年69。(1840-1908)

1 明治 年2月5日 (2714)
時是寒威栗烈之処愈御清安珍重大賀候、然ハ小子昨夏発病以来屢御尋問被下御厚情深く感謝之至候、漸平快出勤仕候間先以寸楮御礼申上候、猶踵門可申謝候、匆々不具

二月五日 松浦詮
池田謙斎殿

2 明治 年4月1日 (2715)
来十五日花下茶会相催候間、午前十時より四時迄之内御繰合御光臨被下度希望仕候、此段御案内申述候也

四月一日 松浦詮
尚雨天順延候也
池田謙斎殿

(印刷物)

3 明治 年3月9日 (2716)
(封筒表) 駿河台甲賀町 池田謙斎殿 親展
(消印 三月十日)

(封筒裏) 松浦詮(角印)
春色相催候処愈御安清奉賀候、然ハ兼て申上候粗茶差出度、来十七日正午御繰合御来臨被下度、此旨御案内申上候也

御相客ハ東久世・長与・安田善次郎等なり
三月九日 松浦詮
池田謙斎殿
尚々御諾否貴答を乞候也

4 明治35年3月21日 (2717)
(封筒表) 駿河台甲賀町 池田謙斎殿 親展
(消印 京□ 三十五・三・二十二・前四)

(封筒裏) 向柳原町 松浦詮
(別筆 明治三十五年三月廿六日正午
鎮信徳祐居士二百年祭茶)

(別筆付箋 伯爵)

(祭茶会記 略)

春寒去兼候得共愈御安清珍重奉賀候、然ハ家祖肥前守鎮信⁽¹⁾本年二百年忌ニ付祭茶相催候間、何之風情も無之候得共来廿六日正午粗茶差上度候間、何卒御縁合御光来被下度希望仕候、此段御案内申上候、御諾否御一報被下度希望仕候也

尚御相伴ハ葛岡信綱・松島春実・壺屋湖遊
・栗山松一郎

三月廿一日

詮

池田謙齋殿

(1) 松浦鎮信^{しげのぶ}は元和8年生まれ元禄16年没。肥前平戸第四代藩主。片桐石州に茶道を学び鎮信流を起こす。享年82。(1622-1703)

[28] 毛利元徳・元昭・家令・家扶の書簡

当家は周防山口藩主家(36万9000石余)

元徳^{たかちか}は天保10年生まれ明治29年没。養父敬親と共に幕末国事に尽くす。第15国立銀行頭取。公爵。享年58。(1839-1896)

元昭^{もとあきら}は慶応元年生まれ昭和13年没。元徳の長男。公爵。享年74。(1865-1938)

1 明治11年5月21日 (2819)

本月廿六日贈正二位木戸孝允一周忌ニ付、於築地本願寺拙者并旧因之者申合せ法会致執行候、就てハ粗飯差上度、乍御苦勞正午十二時御来臨被成下度此段御案内申進候也

五月廿一日

毛利元徳

池田謙齋殿

2 明治 年6月21日 (2820)

↗

(端裏書) 池田謙齋殿 毛利元徳 家扶

↗

拝啓、然は例年之通白羽二重老疋、交肴一折被差贈候間、御受納被下度奉存候、此段宜得貴意旨元徳被申付、如此御座候也

六月廿一日

3 明治 年12月18日 (2821)

記

一、白羽二重 老疋

一、交肴 老折

右例年之通被差贈候、御収納可被成下候也

十二月十八日

↗

池田謙齋殿

毛利元徳 家令

↗

4 明治 年10月27日 (2822)

↗

(端裏書) 池田謙齋様 毛利元徳 家扶

↗

以手紙致啓上候、然は九月中両邸え御来診被成下候、為御挨拶金四円被致進入度、此段宜得貴意旨元徳被申付如此御座候也

十月廿七日

5 明治 年12月21日 (2823)

(封筒表) 池田謙齋殿 品添 毛利元徳 家扶

(封筒裏) 緘 東京芝区高輪南町廿七番地

(ゴム印)

以手紙致啓達候、然は千萬薄菲之至ニ候得共、交肴老籠白羽二重老疋被致進上度ニ付、為持差出候ニ付御収納可被下候、為其如此ニ御座候也

十二月廿一日

毛利元徳 家扶

池田謙齋殿

6 明治 年9月28日 (2824)

↗

(端裏書) 池田謙齋様 毛利元徳 家扶

↗

以手紙致啓上候、然は当春初京都御来診被致御頼候付、為御挨拶金式千疋⁽¹⁾被相贈候、此段可得貴意旨ニ付如此ニ御座候也

九月廿八日

(1) 400疋 = 1両 = 1円。依って2000疋は5両 = 5円。

7 明治 年12月19日 (2825)

記

一、白羽二重 壹匹

一、鯉節 壹折

右例年之通被差贈候付為持差出候間、宜敷御取計被下度、此段得貴意候也

十二月十九日 公爵毛利元徳 家扶

池田謙齋殿

執事御中

8 明治 年6月29日 (2826)

一、白羽二重 壹疋

一、交肴 壹折

右例年之通り為被差送候間御取納可被下候也

六月廿九日

池田謙齋殿

毛利家 家扶

9 明治33年12月13日 (2827)

拜啓、陳ハ来ル廿三日亡父元徳五年祭相当ニ付、山口野田神社ニ於テ祭事執行候間、此段為御知申進候、敬具

十二月十三日

毛利元昭

池田謙齋殿

追テ東京高輪邸内靈社ニ参拜所相設候間、為念申添候也

10 明治34年12月 (2828)

口上扣

来ル二十三日故從一位元徳五週年相当ニ付、同日祭典執行被致候、仍て乍粗末鏡餅壹重被差出候

毛利元昭 使者

[29] 山内容堂(豊信)・豊範家扶の書簡

当家は土佐高知藩主家(24万2000石)

豊信(容堂)は文政10年生まれ明治5年没。幕

末国事に尽力し大政奉還に導いた。維新後各種要職に就く。贈従一位。侯爵。享年46。(1827-1872)
豊範は弘化3年生まれ明治19年没。幕末養父と共に国事に尽くす。侯爵。享年41。(1846-1886)

1 明治3年間10月8日 (2845)

(端裏書) 池田様 拜復 山内

御懇書難有奉拜読候、然は弥明日ボードエン先生⁽¹⁾貴所様御同道ニテ御来臨被下候由、右ニ付料理向万々御心添被下是又難有委細奉畏候、并ニ昼後御都合次第御来駕被下度段是又奉畏候、何れ明日拜鳳万々御礼可申上候、先ハ右貴報而已申上度、勿々頓首

閏月八日

(1) ボードイン Bauduin, A.F. 幕末オランダ人お雇い教師・陸軍軍医。文久2年(1862)ポンペの後任として来日。明治3年(1870)帰国準備中後任ドイツ人未着の為3カ月間大学東校で診療・講義に当った。(1822-1885)

(注) この手紙の差出人は内容から山内容堂と推測される。

2 明治 年12月16日 (2844)

(封筒表) 池田謙齋殿

(封筒裏) 山内豊範 家扶

拜啓仕候、陳は先頃中は小兒病氣ニ付、毎度御苦勞相懸御蔭ヲ以頃日全快ニ相趣候、旁厚御礼申上候様豊範申聞候、就ては乍軽少別紙進上被致候間御受納可被下候、先は右為可得貴意如此御坐候也

十二月十六日

山内豊範 家扶

池田謙齋殿

人々御中

勲功華族の書簡 (その1)

勲功華族の書簡は91家あり、その内51家は『東大医学部初代総理池田謙齋』上下巻に掲載済。その際紙幅の都合で掲載省略したものと未掲載諸家の書簡を記す。

[1] 青木周蔵の書簡

当家は代々医学を以て山口藩に仕えた青木家の分家。

青木周蔵は弘化元年生まれ大正3年没。プロシヤに留学。外交官になり欧州各国の公使・外務大臣・枢密顧問官歴任。子爵。享年71。(1844-1914)

1 1876年(明治9年)3月25日 (16)

(ベルリンよりの電報。日付はマルセイユ受信時)

Docteur Ikeda consulat Japonais Marseille

Gluecklich reise und baldig et froehliches eintreffen in unserem liebe faterlande wuenischt. aoki

(マルセイユ日本領事館気付 池田博士殿

平穏な航海と喜びに満ちた我が愛する祖国への速やかなる到着をお祈り申し上げます青木)

[別筆にて「池田謙齋翁が明治九年マルセイユ出発帰国之船に乗ラル、際伯林ニ滞在中ノ青木周蔵氏ヨリ旅行の安全ヲ祈ル電報」との付箋あり]

(注) 池田謙齋は明治9年5月11日横浜帰着。

2 明治 年9月7日 (24)

昨日ハ望外之美魚御恵贈被下難有拜謝仕候、誠ニ右様之賜ニ接ず候共よいものニ土俗ニ習ヒ丁寧ニ御待遇有之候段因(虫)、荊婦事先日来度々「ヨンマハト」⁽¹⁾ニ沈候頭状有之、大ニ究居申候、就て此地方へ御通行之節一寸御立寄被下度奉願候、尤時ト日ヲ期せずして御枉駕被下候ても行違ニ相成候も難計候間、極々御面倒ながら此僕へ一行を御托相成、何之日何時御出可被下敷之段御報奉煩

候、草々不乙

九月七日

謙齋学兄

周蔵

(1) ヲンマハト 無気力の事。

3 明治 年11月1日 (23)

時日宮内省へ罷出候ニ付侍医之御部屋へ尋参候処、折悪敷本日ハ老兄之御当直ニ無之、千万遺憾ニ有之申候、実ハ先日来得拜眉御気付ヲ以老人之産婆アンガジーレンいたし置度存申候、併シ本月五日までハ生義殆他行も難相成ほどニいそがわしく候間、邸へも罷出兼申候、就てハ要寛候て以書帖願出候段、万々恐縮之至ニ候得共、試験済之産婆中殊ニ老兄之御目ニ掛居候者有之候ハ、其人之名前并住居共以一行御報被下間敷敷、此段願出申候、草々不乙

十一月一日

池田国手 侍史

青木生

4 明治 年 月20日 (19)

(封筒表) 池田謙齋殿 乞親展 青木周蔵 略啓、産婆之言ニ今日或明朝比ニは小兒之臍帶脱落可致との事ニ御坐候、左候上ハ脱痕へ何か捺附可然様被存候処、老兄之御指揮なくては荊婦ニ於て何事も首肯不致候間、前頭ニ係候処方御示被下度、自然粉末ニても捺擦可致都合ニ候ハ、此者へ該薬剤御渡可被下奉願候、先ハ為其草々不乙

廿日

池田国手 坐下

周蔵

5 明治 年4月9日 (22)

先日ハ大ニ失敬仕候、陳少女へ種痘之義ハ如何可有之歟、生等出発之期も本月拾二之比ニ延引相成候間、新鮮なる牛痘有之候ハ、盟台(欠)啓シ種痘可願云々荊婦より被^〇申^〇付^〇候、先ハ為其恐々不乙

四月九日
池田盟台

周蔵

(1) 花子 明治12年生、フォン・ハッツフェルド夫人。

(2) エリザベット ドイツ人 フォン・ラーデ長女。嘉永元年生まれ昭和6年没。(1848-1931)

6 明治 年11月13日 (20)
前略、愚弟義又々少々腸痛ニ被煩候ニ付、本日番丁地方え御出相成候ハ、一寸御立寄可被下強て奉願候、先ハ為其草々不乙

謙斎老兄

周蔵

十一月十三日

[2] 足立正聲の書簡

当家は鳥取藩士家

正聲は天保12年生まれ明治40年没。幕末長州にて兵学を学ぶ。維新後東宮亮・諸陵頭を歴任。男爵。享年67。(1841-1907)

7 明治 年11月17日 (21)
前略、舎弟義一昨日より小生所へ参居候間、御参朝之節或ハ御退朝之序一寸御立寄可被遣奉願候、実ハ強て異変之症も不相見候得共、李家氏 ハ今一応老兄之高診を取るべくト噂いたし居申候、細君ハ如何々々追々御臨月之方へ近ク相成候間、御外出も六ヶ敷御事ト奉察候、北堂様へ可然御致音是祈、草々不乙

十一月十七日

周蔵

謙斎老兄 侍史

1 明治 年5月9日 (63)

(封筒表) 池田一等侍医様 急願用

(封筒裏) 瀧山勝次母氏持参

五月九日午後認

東京麹町区三番町八十壱番地 足立正聲

(ゴム印)

拝啓、益御安泰被遊御座恐賀之至存候、然ハ昨年来御治療御依頼申上居候鳥取県瀧山勝次儀、此節根岸金杉村へ転居養生罷在候処、去ル四日正午前俄然吐血仕、不取敢近辺之医士某へ相頼手当仕候内、又今九日午前十一時吐血仕、家内ども大ニ心配罷在本人も何卒先生之御一診ヲ仰き申度トノ情願、実ニ無余儀次第ニ御坐候間、甚願上兼候へ共先生御用都合ヲ以御枉駕御診察遣り被成下候ハ、いか斗り難有狩可申候、此段私とども懇願仕候、猶家内より御□□被下度、早々為右如斯ニ御坐候也、頓首

五月九日

正聲 再拝

池田先生 玉案下

8 明治 年5月10日 (18)
靈南坂井上奥さま先日来御不快之模様ニ御坐候故、鳥渡御来診可被下旨昨日御玄関迄申入置候、御多忙中申上兼候得共今明日之内一寸御出可被下候、為其如此ニ御坐候、頓首

五月十日

周蔵 生

池田老台

9 明治37年12月29日 (17)
拝啓、先般長女花子⁽¹⁾結婚ノ節ハ御祝意御彰表ノ証トシテ結構ナル御品ノ御惠贈被下、当人ハ勿論私共夫婦ニ於テモ深ク御同情ノ思召ニ感謝罷在申候、依テ乍略儀書中ヲ以御礼申上度、如此ニ御座候、敬具

明治三十七年十二月廿九日

子爵 青木周蔵

同夫人エリザベット⁽²⁾

男爵 池田謙斎殿

[主要参考文献]

朝日新聞社編『朝日 日本歴史人物事典』朝日新聞社 1994年11月30日発行

霞会館諸家資料調査委員会編『昭和新修華族家系大成』上・下巻 霞会館 1984年4月10日発行

池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙斎』上・下巻 思文閣出版 2007年2月25日発行

日本歴史学会編『明治維新人名辞典』吉川弘文館 1981年9月10日発行